

## 台湾政府による ICT を活用した農村情報発信の取組

Challenges of Taiwanese Government for vitalizing rural information transmission utilizing ICT

○鬼塚健一郎\* 王 忠融

○Kenichiro ONITSUKA\* Wang Chung-jung

## I 研究の背景

少子高齢化の進行に伴い、農村地域を取り巻く環境は深刻化の一途をたどっており、この傾向は我が国に留まらず先進国を中心に全世界的なものとなっている。農村地域における定住人口や交流人口、観光客等の確保に向けて、農村地域の魅力を伝える情報発信が重要な課題である。近年は、情報通信技術（ICT: Information and Communication Technology）の進歩・普及が著しく、スマートフォン・タブレット PC や SNS 等により、いつでもどこでも簡単に情報発信や交流を行うことが可能となっている。農村地域においてもこれらの情報発信環境の活用が期待されるが、インターネット上には、個人、組織・団体、地域など様々な主体による発信情報が溢れており、その質や内容が魅力的であることはもとより、検索エンジンでの上位ヒットや有名人やマスメディアによる紹介等がなければ、その多くは人の目に触れることはない。それは逆に、農村地域の情報に関心がある場合、求めるような農村地域の情報にたどりつきにくいことも意味する。このような状況下で、農村地域の情報の一元的な集約や魅力的なコンテンツが必要とされ、その役割の担い手として中央・地方政府にも期待が集まる。ただし、我が国では農業集落数の多さも手伝い、農村情報を集約したポータルサイト等は非常に少ないのが現状である。他方、国外では、国内では実現されていない取組もみられ、我が国の農村情報発信にも大いに参考となることが期待される。本報告では、台湾政府による農村情報発信の取組を事例として取り上げ、その内容や構成を整理し、我が国への示唆について考察を行う。

## II 台湾政府による農村の情報発信の取組

台湾では、社区と呼ばれる単位（社区はコミュニティの訳語とされる）でまちづくり（社区营造）が行われている。社区の定義は、「社区营造政策において、政府の助成を得て社区营造事業を進めるために法律に基づき社区発展協会等の組織を設立した地区」とされ、都市・農村の双方を含み、台湾全国で2016年現在合計6,881あるとされる。台湾政府は、この社区を単位として、地域情報のデータベースサイト「社区通」や、ポータルサイト「農村風情網」、スマホアプリ「農村好讚」を公開している。以降では、これら3つのWebサイト・アプリについて内容や機能を整理する。

(1) 社区通（文化部）（<http://communitytaiwan.moc.gov.tw/>）

「社区通」は、行政院文化部（元行政院文化建設委員会）が構築した「社区」の情報データベースである。上記定義に当てはまるほぼすべての社区（都市・農村を含む）の情報が登録されており、誰でも閲覧が可能である。社区营造事業に取り組む際に義務的に登録されるほか、登録されている社区にはアカウントが配布され、個別に内容を追加・編集することも可能である。台湾の第1級（県、市）、第2級（郷、鎮、市）行政区分とその下部行政区により、容易に対象とする社区を検索することが可能である。

(2) 農村風情網（農業委員会水土保持局）（<http://rural.swcb.gov.tw/>）

「農村風情網」は、行政院農業委員会に属する水土保持局により開発・運営が行われている農村情報を一元的に集約したポータルサイトである。「農村風情網」も社区を単位として情報が掲載されているが、

\*京都大学大学院地球環境学堂 Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto University IT インターネット

取り上げられているのは農村の社区のみである。また、中身の情報も「社区通」とは異なり、写真や映像などのマルチメディアコンテンツを豊富に含んだ、よりPR性の高いものとなっている。「農村風情網」は、大きく「全情報版」、「携帯版」、「子ども版」、「老人版」、「英語版」と、対象者によって内容の異なるサイトを含んでいる。例として、子ども版には、遊びながら農村の情報を学べるようなゲームも提供されている。さらに内容としては、「社区の紹介」、「特産品の紹介」、「ブログ記事」、「写真や映像コンテンツ」、「旅行客が書きこんだ記事」がメニューから選択でき、各ページでは、情報の一覧リストの他に、地図から社区を検索する機能や、「社区通」と同様に市や県と下部行政区により検索する機能が含まれる（図1）。また、各社区の記事内ではFacebookなど外部ページへのリンクも掲載されている。「農村風情網」自体のFacebookページも存在し、ポータルサイトの更新内容等が投稿される。さらに、「農村風情網」では、過去に農村情報の記事に関するコンテストが開催されており、誰でもFacebookやInstagramにハッシュタグをつけて記事を投稿することでコンテストの対象となり、優秀記事には賞金が与えられた。



図1 農村風情網の社区情報ページ

### (3) 農村好讚 (農業委員会水土保持局)

水土保持局では、「農村風情網」の他に、「農村好讚」というスマートフォン版のポータルアプリを開発し、iOS、Androidで公開している（無料）。「農村好讚」では、「農村風情網」で得られるような社区別の情報の他に、現在地周辺の社区の情報を検索する機能や、地域内各所に設置されたQRコードから情報を瞬時に閲覧できる機能、AR (Augmented Reality) を活用した写真撮影機能、携帯ゲームなどが挙げられる（図2）。



図2 農村好讚の画面

### III まとめ

我が国に目を向けると、「社区通」で提供される農村地域の基本情報は、農林業センサス等で得ることはできるが、目的とするデータへのアクセス性は十分とはいえない。「農村風情網」が提供する機能については、2017年に農林水産省が公開した「農山漁村ナビ」等をはじめ、各地方自治体等でも類似の取組が存在する。しかし、「農山漁村ナビ」は優良事例が主な対象であり登録件数もまだまだ少なく、地方自治体が運営するポータルサイトも地域が限定されているほか、使い勝手もあまり良くないものが多い。また、「農村好讚」のような農村情報を集約したスマートフォンアプリは、我が国には存在しない。

今後、我が国で求められるのは、「農村風情網」のように農村情報を集約したポータルサイトやアプリが挙げられる。ただし、台湾と比べると我が国の農業集落数はけた違いに多いため、全国規模ではなく、都道府県規模の方で実現し、それらをリンクするといった方法が現実的であると考えられる。